

※一部非公開

令和二年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次のA、Bの文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

A

非公開

非公開

(鈴木孝夫、『日本の感性が世界を変える 言語生態学的文明論』、新潮社、二〇一四年、二四〇～二九ページ、抜粋・一部改変)

## 非公開

B

(沖縄県現代俳句協会、『沖縄歳時記』、文學の森、二〇一七年、一〜二ページ、抜粋)

問一 傍線部①『自然はまさに「風が吹けば桶屋が儲かる」の、ちよつと見では分からない、複雑極まりない繋がりで動いている』とはどういう意味か、本文の内容を踏まえて説明しなさい。(二〇〇字程度)

問二 Aの文章の著者は、俳句にどのような意義を見出していますか。本文の内容を踏まえて解説しなさい。(四〇〇字程度)

問三 傍線部②「関東や関西中心の歳時記では、どうしても季節のずれや動植物の違いなど発生してしまう」とある。沖縄の小学校で俳句学習を行う際に、この問題を克服するためには、どのような工夫や手立てが必要か、あなたの考えを述べなさい。

(四〇〇字程度)

令和二年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

出題の意図

本専修では、国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持つているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。

まず、これまで出題してきた試験問題を振り返る。平成二十九年度は、あいまいで微妙な表現を楽しむ社会と、はっきりとものを言う社会との比較を通じて、バックグラウンドの異なる人々が共生する社会について考えさせた。平成三十年度は、敬語についての素材文を用意し、地域によって異なりをみせる敬語体系について、小学校の言語使用状況も含めて考えさせた。平成三十一年度には、詩を通じて日本語の音声的特徴、および日本語のオノマトペによる表現の豊かさについて考えさせ、さらに授業構想させることにより、国語教育への構想力を測った。

本年度は、俳句をあつかった素材文を二種類用意した。一つは、俳句を通じて日本人のどのような感性が見いだされるか、について説明させることにより、国語を活用する力としての読解力をはかる。さらに問一のように慣用句、ことわざを通じて国語の知識を測るものも用意した。もう一つは、沖繩と本土の季節感のずれについて指摘したものである。このずれを沖繩の小学校で俳句学習を行う際にどのように克服させるか、考えさせたい。以上の問から、論理的な記述力を評価し、俳句学習を通して国語教育への構想力を測りたい。

この入学試験問題を用いることにより、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「一 教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていききたい人」「二 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかについても確認したい。